

浅草、市ヶ谷、新宿、九段、新大久保！
—京都立命南野ゼミとの21世紀東京たんけん—

岡野内 正

<あさくさいちがやしんじゅくくだんしんおおくぼ>

語呂がいいではないか。2012年9月21~23日。週末の3日間の合同合宿のポイントだ。ほんとうは、この前に、首相官邸、国会議事堂がくる。わたしは金曜夕刻の授業で参加できなかったが、ゼミのみんなは、立命ゼミの7名を東京駅に迎えると、すぐに首相官邸、国家議事堂包囲の「原発やめな」金曜デモの見物に行った。

夜8時半の集合時刻よりやや早めに浅草へ。外国人比率の高い雑踏を歩き、2時間飲み放題2500円のもんじゃ焼きへ。全部あわせて20数名だが、店は貸し切りになっている。立命館大学国際関係学部南野ゼミとの初めての試み。

<浅草サクラ・ホテル>

素泊まり3000円の外国人向け安宿。花やしき裏の抜群のロケーションだが、設備は、1週間前に泊まっていたこぎれいなミュンヘンのバックパッカー向け安宿そのもの。客のおしゃべりも、英語、フランス語、中国語、韓国語、…日本語が聞こえることはごくわずか。翌朝、南野氏とアーケード街を探検し、24時間営業の飯屋でつけ麺を食う。数年前まで隅田川河川敷にずらりと並んでいた「仮設住宅」をチェックすることはできなかったが、ホームレスの人が眠るらしき段ボールのかたまりがちらほら。低く垂れ込めた雲に首を突っ込む新しいなんとかタワー。浅草寺境内を抜けて、市ヶ谷キャンパスへ。

<土曜終日ゼミ>

地下鉄ではぐれるハプニングにもかかわらず、朝10時には、法政市ヶ谷の高層ビル6階に閉じこもり、終日ゼミ開始。ゼミ研修旅行の印象を交えて、ナミビアのベーシック・インカム、南アフリカのアパルトヘイトを語るこちらのゼミ生。向こうは、個人研究を踏まえて纏足、捕鯨、女性性器切除などの伝統の問題、責任をめぐる哲学的問題。昨夜は2次会のあとさらに部屋飲みで4時まで、…という面々も、報告・討論時間はなんとかもちこたえる健気さ。ミニ講義なんてのもあり、私は9月にドイツの学会でやった地球人手当の話、南野氏は、北アイルランド紛争収束の構図を民主主義論とからめて。…彼とのつきあいは、ナショナリズム論の翻訳をいっしょにやって以来だが、20世紀末のイギリス滞在中に、イギリスの平和団体が主催したベルファストでのホームステイ・プログラムでいっしょになったこともあり、両武装勢力の元幹部がともに談笑する最近の画像に感無量で考え込む。

<新宿ホームレス支援>

夕刻5時過ぎには新宿へ向かい、大戸屋でめしをかきこみ、7時には西口地下の「スープの会」集合場所へ。…今回の合同合宿企画のハイライト、ホームレス支援体験である。我々の参加でいつもの倍くらいの10人ずつくらいが、5つのコースに分かれて、路上で暮らす人々に、ポット入りのあったかい味噌汁とおむすび、お菓子など、困ったときの連絡先ビラなどを配り、声をかけて回る。待ち構えていて、味噌汁の紙コップを抱えたまま、堰を切ったようにいろんなことを語り始める人もいて、いちばん遅かった私が加わった西口地上コースが、3時間の路上活動を終えて、集合場所の新宿ビル街広場、オフィス街の人々がワイングラスやジョッキを傾ける高層ビルの谷間の広場に到着したのは、10時過ぎ。広場からの追い出し放送が入る11時まで、50人ばかりがひとりずつ今日の体験、気づきを語る。

<路上のいろんなひとたち>

ほかのコースでは、20代の女性ホームレスとの遭遇のようなすさまじい話もあったが、私のコースでは、私と同年配あるいはそれ以上の男性ばかり。…スープの会常連ボランティアの4年女子学生に、「就職はどうだ？…フリーターはやめたほうがいいよ、一時はよくても、すぐにだめになる。おれがいちばんよく知ってるんだから。…先生がいいよ。安定してるから。」などと語りかけるおじさん。BIG ISSUEというホームレス自立支援の雑誌売りもしていて、バックナンバーをみんなにくれたり。…バス停の後ろにたたずんで、ビニール袋にきちんと折りたたんで鞆に入れてある美術展や音楽会のチラシを引っ張り出して、まるでなにもなかったかのように芸術論を展開してくれるおじさん。(あの方、いつもたくさんお話されるんですよね、とスープの会の方) …

<この冬もつのかな…>

しかし、今回一番ぐっときたのは、西口地上の風雨にさらされてすっかり枯れてさっぱりした顔をしたおじいさん。私が担当して渡すことになった袋には、ラップで包んだきれいに4分の1に切ったみずみずしいナシ。「ナシです〜！」とおじいさんの手に押し込むと、じっとそれを見つめ、次に私のほうにゆっくり目を向け、大事そうにポケットへ。その顔があまりに美しくて透明なので、「あ、このおじいさん、この冬もつのかな、…」と思ったとたんに、涙があふれそうになるのをぐっとおさえる。…横断歩道を渡って、数名のホームレスの人がたむろするスポットに向かっていると、後ろからそのおじいさん。あれ？と見ていると、こっちに座り込む別のおじいさんのそばへ。…しばらく立ち止まっていたかとおもえば、またもとの西口の雑踏へ。ふと見れば、座り込んでいるこちらのおじいさんが、両手でナシをかかえてゆっくりとかじっている。あ、あのじいさん、…大事なナシをお友達に。…その瞬間、もう、涙があふれて止まらない。

<生涯忘れられないこと>

20年にもなる支援活動の実績があつてこそ得られているホームレスの人々からの信頼感。そんなスープの会の人たちと歩いて初めて接することのできるホームレスの人々のいろんな顔。外交官試験をめざすIさんをはじめとする立命の学生たち、そしてこっちの学生にとっても初めての、そんなホームレスの人々との出会いは、生涯忘れられない体験になったようだ。大阪の下町育ちの南野さんさえ、子供時代以来のこういう人々との出会いで、手渡したおむすびを両手で抱いて、「ありがとう」とうれしそうに礼を言ってくれたじいさんの顔が忘れられない、と。…スープの会の人々はいつも終了後は新宿「しょんべん横丁」の焼き鳥屋で一杯やるしきたり。「新しく体験に来てくれる人がいて、いろんな発見をしてくれて、私たちもほんとうに元気をもらいます。」と言い切るスープの会の人々に乾杯！

<靖国神社遊就館>

あいにくの雨の日曜日。九段のただっ広い靖国境内を濡れながら横切り、明治10年創設で皇国史観の系譜を引き継ぐことで名高い博物館、遊就館へ。連続上映している「忘れない」というような題の40分ばかりの映画が、全体のコンセプトを明確に。…「日本は、…」という語り方、主語の置き方そのものに大きな問題があることを痛感。…日本は、早く一人前になりたいと思ったけど、他国に妨げられて、やむなく戦い、やっと一人前になったけど、負けてしまい、それでも生き残ってまた一人前になろうとしているよ。そんな日本のために命を捧げた人に感謝して、君も日本のために命を捧げようね。…そんな物語が無理なく入ってくるのが、日本は、という語りのしかけ。…どうだった？と聞けば、「北朝鮮みたい」という声も。…うーん、強烈なナショナリズムという点では確かに。

<新大久保コリアンタウン、高麗博物館>

午後は、まず新大久保で韓国料理を食べ、高麗博物館へ。新大久保から新宿歌舞伎町にかけて、韓国系の店がずらりと並び、そのど真ん中にあるのが高麗博物館。朝鮮半島の南と北の対立、そして、日本と朝鮮半島の人々との歴史的対立を越えるためにこそ、交流と対立の歴史をはっきりと展示して、国のワクを超えた人々のきずなをつくろうよ、というのが、基本的なコンセプト。…ちょうど今は、日本による朝鮮半島植民地化の歴史という特別展を開催中。…「一人前になろうとしただけの日本」の成長の裏にあった被害者の側の歴史が、整然と、簡潔に。…うーん。「人類は、」と主語を置いて、地域的な争いを越えて、ようやく一人前に、といった物語が、グローバル化の時代には、必要なかなあ。そういう物語が、力強く語られたことって、意外になかったかもしれないなあ。そういう地球人意識をはっきりさせて、地球時手当の物語をつくってみるといい

かも。…などと考えながら、高麗博物館にて解散。さて、合同ゼミ合宿の成果は学生諸君の報告に待つほかないが、私にとっては大いに楽しく刺激に満ちた3日間。関係各位に深く感謝。(2012年10月1日)